

## 外眼部感染症に対する T-3262 の臨床的効果

秦野 寛・堀 武志・石川 凜子・佐々木隆敏  
横浜市立大学医学部眼科\*

新しいキノロン系合成抗菌剤 T-3262 の外眼部感染症に対する臨床的効果判定を行なう目的で、麦粒腫、涙嚢炎、眼瞼縁炎の合計 22 名の患者に T-3262 を 1 日 300~450 mg, 1~7 日間内服投与し、臨床像の観察および細菌学的検索を行ない、本剤の臨床効果、副作用について検討した。その結果麦粒腫 17 例中著効 6 例、有効 10 例、やや有効 1 例、また涙嚢炎 4 例中有効 4 例、眼瞼縁炎 1 例中有効 1 例と言う成績であった。副作用は 3 例にみとめられ、その内容は胃痛、食思不振、胃部不快感、下腿発疹であったが、投薬中止で消失し、いずれも軽度であった。

新キノロン系合成抗菌剤 T-3262 は、外眼部感染症における内服治療薬として、有用であると考えられた。

**Key words :** T-3262, キノロン系合成抗菌剤, 外眼部感染症

T-3262 は 1,8-ナフチリジン環の 1,7 位にそれぞれ 2,4-ジフルオロフェニル基および 3-アミノピロリジニル基を有する新しいピリドンカルボン酸系抗菌剤である。本剤はグラム陽性菌、グラム陰性菌および嫌気性菌に対し広範囲な抗菌スペクトルを示し、殺菌的な強い抗菌力を示す<sup>1)</sup>。

今回、我々は外眼部感染症を対象にして T-3262 の内服剤を投与し、本剤の薬効面からみた有効性と安全性および総合評価としての臨床的有用性の検討を行なった。

### I. 方 法

対象は麦粒腫 17 例、急性涙嚢炎 2 例、慢性涙嚢炎 2 例、慢性眼瞼縁炎 1 例の合計 22 例で、年齢は 14~77 歳 (平均 38 歳) であった。T-3262 を内服で 1 日 300~450 mg, 1~7 日間 (平均 4.3 日間) 投与した。薬剤の総量は疾病の重症度や副作用によって増減された。臨床症状については、異物感、かゆみなどの自覚症状、および眼瞼、結膜ないし涙嚢部の発赤、腫脹、眼脂、流涙、圧痛などの他覚症状について投薬前後で比較した。副作用についても問診をふくめて自他覚的にその発現について調べた。

また、投薬前および投薬後 3 日から 7 日の間に、滅菌綿棒を用いて、病巣分泌物を採取し、輸送用培地にて培養検査施設に送付し、細菌学的検索を行なった。

成績の判定は、投薬前と投薬終了時点で臨床像と細菌培養結果を比較し、臨床症状と菌の消失がみられたものを著効、臨床症状と菌のどちらかが消失したものを有効、臨床症状の改善のみがみられたものをやや有効、不変を無効、悪化したものを悪化と判定した。

以上、臨床症状と細菌の消長からみた本剤の薬効面での有効性と、副作用と合せて本剤の総合的な臨床的有用性について検討した。

### II. 成 績

臨床症状の改善度 (Table 1) については、麦粒腫 17 例中、著効例が 6 例 (35%)、有効例が 10 例 (59%)、やや有効例が 1 例 (6%) であった。急性涙嚢炎では 2 例中 2 例が有効、慢性涙嚢炎では 2 例中 2 例が有効、慢性眼瞼縁炎では 1 例中 1 例有効であり、全症例を通じて無効例はなかった。

細菌培養の結果は、22 例の全症例中、13 例 (59%) から 1 から 4 種類の菌が検出され、9 例 (41%) からは菌は検出されなかった。検出菌の内訳は *Staphylococcus epidermidis* 5 株、*Staphylococcus aureus*、*Corynebacterium* sp., *Streptococcus mitis*、*Propionibacterium acnes* が各 2 株、その他 *Streptococcus pneumoniae*、*Streptococcus pyogenes*、*Staphylococcus* sp., *Peptostreptococcus anaerobius*、*Xanthomonas maltophilia*、*Streptococcus sanguis*、*Neisseria sicca* が各 1 株であった。本剤投与によって、症例 20 で投与後の検査を実施できなかったが、症例 3 で分離された *Corynebacterium* sp. 以外の菌は全て除菌された。

副作用についてみると、22 例中の 3 例 (14%) でみられた。症例 4 では投与 2 日目に胃痛が出現したが、減量して投与継続可能であった。症例 5 では胃部不快感と食思不振、症例 17 では下肢の発疹がみられたが、副作用発現と同時に投薬を中止し、その後速やかに症状は消失した。

Table 1-1. Clinical results of T-3262

No.	Age	Sex	Diagnosis	Severity	Organism Before After	MIC (10 <sup>6</sup> /ml)	Treatment			Clinical effects	Side effects
							Daily dose (mg×times)	Duration (days)	Total dose (g)		
1	49	M	Chronic blepharitis	Moderate	<i>S. epidermidis</i> (-)*	0.05	150×2	7	2.1	Good	-
2	68	F	Acute dacryocystitis	Severe	<i>S. mitis</i> <i>P. anaerobius</i> <i>P. acnes</i>	0.39 6.25 0.78	150×3	5	2.25	Good	-
3	77	M	Acute dacryocystitis	Severe	<i>Corynebacterium</i> sp. <i>X. mallophilia</i> <i>Corynebacterium</i> sp. <i>Fraxobacterium</i> sp. <i>P. acnes</i>	0.025 1.56 0.39 ≤0.00625 0.78	150×3	5	2.25	Good	-
4	32	F	Chronic dacryocystitis	Moderate	<i>S. pneumoniae</i> (-)		150×3 150×2	7	2.7	Good	Stomachache
5	33	F	Chronic dacryocystitis	Moderate	<i>S. aureus</i> <i>S. pyogenes</i> (-)	0.05 0.39	150×2	1	0.3	Good	Loss of appetite, Stomach discom- fort
6	65	F	Internal hordeolum	Moderate	<i>S. epidermidis</i> (-)	0.05	150×3 150×2	5	1.95	Excellent	-
7	55	F	Internal hordeolum	Moderate	(-) (-)		150×2	3	0.9	Good	-
8	35	F	Internal hordeolum	Moderate	(-) (-)		150×2	3	0.9	Good	-
9	29	M	Internal hordeolum	Moderate	<i>Staphylococcus</i> sp. (-)	0.025	150×2	5	1.5	Excellent	-

\* During

Table 1-2. Clinical results of T-3262

No.	Age	Sex	Diagnosis	Severity	Organism Before After	MIC (10 <sup>6</sup> /ml)	Treatment			Clinical effects	Side effects
							Daily dose (mg×times)	Duration (days)	Total dose (g)		
10	41	F	External hordeolum	Moderate	<i>S. epidermidis</i> (-)*	0.05	150×3	5	2.25	Excellent	-
11	23	M	External hordeolum	Moderate	(-) (-)		150×2	4	1.2	Good	-
12	31	F	External hordeolum	Severe	<i>S. sanguis</i> <i>S. mitis</i> <i>Corynebacterium</i> sp. <i>N. sicca</i> (-)	0.2 0.05 0.39 0.05	150×2	4	1.2	Excellent	-
13	37	M	External hordeolum	Moderate	<i>P. acnes</i> (-)	0.78	150×2	3	0.9	Excellent	-
14	69	F	External hordeolum	Moderate	(-) (-)		150×3	6	2.7	Good	-
15	19	F	External hordeolum	Mild	(-) (-)		150×3	3	1.35	Good	-
16	16	F	External hordeolum	Moderate	(-) (-)		150×3	6	2.7	Good	-
17	36	F	External hordeolum	Moderate	(-) (-)		150×3	2	0.9	Good	Skin eruption in leg
18	21	M	External hordeolum	Moderate	Not tested (-)		150×2	4	1.2	Good	-
19	31	F	External hordeolum	Moderate	<i>S. epidermidis</i> <i>P. acnes</i>	0.1 0.78	150×2	4	1.2	Fair	-

\* During

Table 1-3 Clinical results of T-3262

No.	Age	Sex	Diagnosis	Severity	Organism Before After	MIC (10 <sup>6</sup> /ml)	Treatment			Clinical effects	Side effects
							Daily dose (mg × times)	Duration (days)	Total dose (g)		
20	46	F	External hordeolum	Moderate	<i>S. aureus</i> Not tested	0.025	150 × 3	3	1.35	Good	1
21	14	F	External hordeolum	Moderate	(-) Not tested		150 × 2	3	0.9	Good	1
22	18	M	External hordeolum	Mild	<i>S. epidermidis</i> <i>P. acnes</i> (-)	0.05 1.56	150 × 2	7	2.1	Excellent	1

## III. 考 按

本剤は新キノロン系合成抗菌剤の一つであり、抗菌スペクトルが広い。特に、*S. aureus*, *Streptococcus*, *Enterococcus*などのグラム陽性菌、ブドウ糖非醗酵グラム陰性菌、*Peptostreptococcus*, *Bacteroides fragilis*に対して、従来のピリドンカルボン酸系抗菌剤より強い抗菌力を示す。血中濃度は持続的で主として尿中に排泄され、安全性は高く、中枢神経作用や関節毒性は弱いといわれている<sup>1)</sup>。

今回のスタディでの臨床効果をみると、全体で著効例は22例中6例、有効例は15例、やや有効1例で、著効、有効を合せて21例(95%)であり、殆どの症例で良好な治療効果を発揮したと考えられる。今回我々の得た成績は他者の報告とほぼ同様の結果と考えられる<sup>2,3)</sup>。

今回の細菌学的検索では、麦粒腫以外では全て菌が検出されたが、麦粒腫では17例中、9例で菌が検出されなかった。これは薬剤の効果判定を正確にするために、補助療法としての穿刺排膿を実施せず、皮膚や結膜からの拭い物の細菌培養であったため、菌の陽性率が低かったものと考えられる。したがって菌の検出されたケースについても、少なくとも麦粒腫については起炎菌と考えるのは無理があると思われる。

副作用は今回の治験では、22例中3例(14%)でみられた。この数値は全国集計3,010例での副作用発現率2.9%<sup>1)</sup>よりも高値であるが、いずれも重篤なものではなかった。

重野<sup>4)</sup>によると従来のピリドンカルボン酸系合成抗菌剤であるナリジクス酸、ピロミド酸、ピペミド酸の副作用は消化器症状が3.47%~8.6%、過敏症状が0.5%~1.57%、神経症状が0.37%~1.08%にみられるが、近年の新キノロン剤であるノフロキサシン、オフロキサシン、シプロフロキサシン、エノキサシンの副作用は消化器症状が2.1%~3.8%、過敏症状が0.3%~0.7%、神経症状が0.4%~1.2%にみられると言う。われわれのケースの副作用は消化器症状が2例、過敏症状が1例で、神経症状はみられなかった。いずれにせよ、本剤は全国集計をみても副作用発現率は2.9%で全般に安全であり、臨床症状の改善にきわめて有効であることから、外眼部感染症の治療に対して有用な薬剤と考えられる。

## 文 献

- 1) 第34回日本化学療法学会東日本支部総会、新薬シンポジウム。T-3262, 東京, 1984
- 2) 熊谷俊一, 渡辺敏明, 田澤 豊: 麦粒腫に対するT-3262の臨床的研究, 第34回日本化学療法学会東日本支部総会, 発表抄録52ページ(No. 121)
- 3) 原 二郎, 張野正誉, 岡本茂樹: 前眼部感染症に対するT-3262の臨床効果, 第34回日本化学療

法学会東日本支部総会, 発表抄録 53ページ (No. 126)

4) 重野秀明, 斎藤 厚.: 副作用 診断と治療, 74 (7):1397~1400, 1986

## T-3262 IN EXTERNAL EYE INFECTIONS

HIROSHI HATANO, TAKESHI HORI, RINKO ISHIKAWA  
and TAKATOSHI SAKAI

Department of Ophthalmology, Yokohama City University, School of Medicine  
3-46 Urabune-cho, Minami-ku, Yokohama-shi 232, Japan

T-3262 is a new oral quinolone derivative. We evaluated the clinical efficacy and the safety of this drug in 22 patients with hordeolum, dacryocystitis and blepharitis, at a daily dose of 300-450 mg for 1-7 days.

The results obtained were as follows.

Clinical efficacy in 17 cases of hordeolum was assessed as excellent in 6, good in 10 and fair in 1; as good in all 4 cases of dacryocystitis, and good in 1 of blepharitis.

Adverse effects were observed in 3 cases: stomachache, loss of appetite, stomach discomfort and skin eruption on the leg. All of them were moderate.

We consequently find T-3262 to be a useful oral drug for the treatment of external eye infections.